

洋書輸入協会会報

VOL. 5
NO. 9

(通巻53号) 昭和46年9月

理事会報告

8月10日(火)

(一) 総務委員会より。

(1) 準会員及び賛助会員に関する規約改正案の提出。

(相良氏)

検討の上若干の修正。更に総務委員会にて検討の上、もう一度理事会に掛けることとする。その上で臨時総会を招集し承認を求めた上発足する手順とする。

(2) 7月分収支計算、予算対比表提出。(柴田氏)

……承認。

(二) 雑誌資料委員会報告。(井出氏)

Williams & Wilkins と AMS 等の件。

(三) 会報委員会より。(相良氏)

会報予約価格を検討の結果報告。

……年間予約価格を1,500円とする。

但し、会員への頒布価格は従来通り。

(四) 文化厚生委員会より。(栗原氏)

(1) 司氏叙勲お祝い文の案を、洋販渡辺氏起草。

後日、理事一同にて持参することとする。

(2) 麻雀大会とダンスパーティの件。

8月23日(月)

通貨問題についての情報交換。

8月30日(月)

(一) 円の変動相場制移行に伴う情報交換。

(二) Agent List 委員会報告。(柴田氏)

(三) 海賊版対策委員会報告。(柴田氏)

(四) アメリカ港湾ストの情報。(柴田氏)

9月3日(金)

理事会及び懇談会(於出版クラブ)

(一) 新会員紹介。

信山社及びマテマティカ社

(二) 通貨問題に対する情報交換。

(三) 総務、洋書交換、通関、Agent List、文化厚生各委員会報告。

(四) 関西支部報告。

9月10日(金)

関西支部長丹羽氏出席。

(一) 通貨問題情報交換。

(二) 総務委員会より。

(1) 準会員及び賛助会員に関する規約改正案二案の提出及び検討。(相良氏)

(2) 8月分収支計算、予算対比表提出。

……承認。

円の切り上げについて

洋 販 渡 辺 正 広

いよいよ円の切り上げは必至となった。つまり今までは対米為替 \$1.00=¥360であったものが \$1.00=¥340とか \$1.00=¥320 になるらしいのである。新聞ではドルショックとか、不況とか、大さわぎしている。何か日本経済が破滅でもしそうな論調である。徒らに国民を不安にかきたてているように思える。端的に言えば何かその裏に意識的なものさえ感ずる。果して円の切り上げはそうであろうか。私は全然そう思わない。冷静に考えて見よう。

先ず、今までは 360 円でアメリカドル 1 ドルと交換していたのだ。ところがこれからは 340 円とか、320 円でよいというわけである。つまり、我々のもっている円の価値が上がるのである。日本の円に対し、世界の評価が上がったということだ。本質論からいったら大変おめでたいことではないか。お前さんのもっている円という通貨は紙切れで役に立ちませんよといわれるのなら悲しみ、なげかなければならないが、あなたの円はもっと価値があるのですよと世界からいわれるのだから喜こんでよい筈である。ドルショックとは文字通り、ドルのショックであって、円にとってのショックではない。円にとっては光栄であり、有難いことなのである。言葉を換えていえば、ドルさんが、今までは円さんと 360 円でおつきあいして頂きましたが、

とてもとてもついていけません。340 円か 320 円下されば 1 ドル差上げますといって白旗をかかげたわけである。政府が無為無策どころか、戦後の日本政府の方針は誠に有為有策であって 100% 正しく、又私達日本国民の営々たる働きぶりが見事結実して、円の価値をあげたのである。本質論からいえば、提灯行列でもしてお祝いすべきである。社会主義国になっていたら今頃は 360 円を維持できるどころではなく 3,600 円位に切り下っていたであろう。その証拠に、終戦から現在まで、外交、政治、経済にわたって一部の評論家のいわれていたことを全部切りぬいて机の上にならべてじっくり見てごらん下さい。一目瞭然である。

以上が、本質論である。ただ現実問題として、円を切り上げる方がよいか、据え置いた方がよいかという問題になると、私は切り上げないで据え置いた方がトクとみる。即ち国益であると考えている。そこで声を大にして円を切り上げるな、切り上げるなといっている。その論拠は本誌七月号にのせた通りである。然しだ、もし切り上げざるを得ない状況になって、切り上げたら、悲鳴を上げてはいけない。我々はその立場でがんばるべきである。円を切り上げたということは、多少実力が伴わないのに東大の試験にかかってしまったようなものである。「私は東大に合格しま

したが、そんな実力はありません。入学辞退致します。」
なんて弱音をはいてはいけない。入った以上はがんばるの
だ。即ち我々国民はもう一ぺん營々として働き努力するの
だ。そして320円から250円へ、250円から200円と、我が円
の価値を益々上げるようにすべきである。又それはでき
る。必ずできる。昔流でいえば「億兆心を一にする」ので
あるし、近代的表現を以てすれば「一億の国民の総エネ
ルギーを結集して」である。勿論具体的現象として輸出の
方はお困りであろう。繊維、玩具、洋食器、雑貨等をつく
っておられる業界の方は途方に連れられておられるに違
いない。ドル債権をお持ちの造船業、船舶業、自動車電気等
の方々が大変お困りになるのはよく判る。でも、終戦の
時、船という船は一隻もない、之から先どうなるかという
あの惨たんたる時、又船をつくるにも船台はない鉄はな
し、誠に一寸先は闇という時と状況は根本的に異なる。只
今、現実的にお困りの時にこういうことをいっては大変申
訳ないけれど、国家百年の流れからいうと実はそんなに違
わないのである。日本の国が米国とかソ連と根本的に異
るのは資源が全くないということである。つまり何にも日本
の国内にはないのだ。そこで日本はあらゆる資源を輸入し
なければならない。そしてそれを加工して輸出してかせ
いでいる国なのだ。鉄も自動車も船もテレビもみんなそう
である。日本は貿易によらなければなりたない国なのであ
る。石油も鉄も銅もそして木材さえも輸入によっている。
ということは円の切り上げによって将来原材料が安く輸入

できるということとなる。そこで輸出価格も安くできると
いう次第。勿論現在のストック on the way のもの、いろ
んなことによって大打撃なことは勿論である。でも米国
とかソ連の平価切り下げとはその本質を異にする。そして
先にも書いた通り、あの戦後の壊滅状態とは比較になら
ない。どうも誠に筆ににくい意見であるが、これらの業界
のトップの方々は日本財界中の最も優れた方々である。更
に極めて優秀な若き人材を豊富に有しておられる業界なの
である。是非その頭脳をだし、つらいであろうが、努力し
て頂きたい。高層建築での Air Pollution に悩まされた東
京に、突如京王プラザホテルが大気汚染ゼロを示している
ように。要するにいいものをつくることだ。品質さえよ
ければ値段は多少高くても人は買うものだ。安いサヨナラ香
水は結局売れなくなる。やはり御婦人はよい香水が好きな
のだ。きれないカミソリは如何に安くてもだめだ。これか
ら Made in Japan という印は“世界最高級品”という意
味であることを全世界の人に示そう、これがこれからの日
本人の相言葉であろう。

（私達洋書業界は円の切り下げでトクをするであろうと一
般の方は考えておられる。果してそうであろうか。我々の
かゝっているストックはどうなるのであろうか。安く輸入
したものは値下げしなければならなくなるであろう。物ご
とには必ず merit と demerit がある。輸入業者はそう単
純にトクをしないことは私達が一番よく身を以て知ってい
る。）

洋書学ことはじめ (VIII)

製本のこと (3)

八 木 佐 吉

前号で紙表紙本についてちょっと記したが、書き足しをする。一般に仮綴じといっているなかにもいろいろある。

針金とじ wire stitching

普通針金綴機によるこの綴じ方にも

平とじ side stitch

中とじ saddle stitch

の二種ある。説明の要なく、日常取扱いの略装の本をご覧になるとすぐ合点がいくと思う。薄いものは中とじが多い。表紙は別に用意して、背と平に浅く糊づけして、中身を包むようにする。

無線とじ adhesive binding

または perfect binding

中身となる折り丁を揃えて、背に多少の操作を施こし、糊の着きをよくし、背に接着剤を塗布して固め、とじ合せるというより接続させる仮製本。とじ糸も針金も用いないことから無線とじの日本呼び名ができたと思う。平とじの針金より本の開きがずっとよい。

「文藝春秋」が従来の針金とじから数年前に無線とじにしたのをお気づきと思う。同誌はこれで「ひらき具合い」

がよくなって、一頁あての行数が若干行ふえたのである。洋書のいわゆる paper-back 本は殆どこの無線とじであることご存じの通りである。

二十数年以前、戦後に初めて paper-back 本が入ってきた頃は、わが国の多湿の気候に馴染まないで、時々本がバラバラになって損失を蒙ったものであった。近頃は接着剤その他の改良があったと見えて、ほとんど崩れなくなった。またわが国の製本屋さんでも大分手がけるようになってきて、perfect binding といってもよいほど、大衆製本となりつつある。

ぶつこ抜き製本 stabbed binding

安直な綴じ方の一つ。折丁を重ね揃えて、平ののどの部分に目打針などで二個所以上の孔を上下に貫通させ、糸あなまたは針金などで綴じる製本。表紙とりつけ、背固めは他に準ずる。中身の開きが悪いことはいうまでもない。

糸とじ sewing

本製の場合に、各々の折り丁を糸で綴じ合わせることに意である。しかし、仮りとじ製本でも糸とじをたくさん見る。表紙だけが簡素な材料であるがしっかり糸でかがられ

ている。

糸とじにミシンとじ、と手仕事での手とじがある。また かがり ともいう。

前号で西洋の古書目録などに

sewed

として仮綴じ製本を示していることがあると書いた。この場合が上記に該当するのである。とくに学術雑誌等の掲載論文の抜き刷り (reprint と extract ともいう) 製本に sewed が多い。

unbound

といって仮製本を表わすこともある。この字は「未製本」の意もあるが、仮とじ 製本をいう場合も多い。小口を裁断しないのと、表紙と中身を一語にして化粧裁ちする製本のどちらをもいう。ドイツ語では

ungebunden

である。これを ungeb. と略字して目録などに附記する。「ウンゲブ〜ウンゲブ」と呼んで、わたくしたちには昔からドイツ書の仮とじ本、紙表紙本など略装を表わす目録用語として懐しい。これに反して、英語の unbound の方は、あまり使わない。他の同意語の paper とか wrappers の方が多く使われている。

紙表紙本・仮とじ・略装など国語でもいろいろの表現があって、本の広告文等にもすぎずきの用語で附記されているが、何といっているても自国語の故か、製本の状態は理解できる。ところが、洋書の場合はまるで違った感じをうけ

ることがある。例えば上記の unbound とあると「綴じないバラバラの本」という風にも考えられる。欧米でもそれぞれのパブリッシャーがまちまちの用語を使っている。そこでわれわれ洋書輸入店はA社ならA社、B店ならB店として、自社の目録用語を一定させておくことが読者に対しても親切であろう。つまり、洋書案内などを印刷するときに、仮とじ本を表わすのに

paper

paper cover

wrappers

などのうちの何れかの一語に一定しておく方が好ましい。

と、老婆心で書き添えておく。(訂正: 前号で papers と s をつけたが s は除く)。

くどいが便宜のため紙表紙用語を一覧すると

sewed

stitched

paper

paper cover

paper-back

wrappers

unbound

などとなる。

ドイツ語では

broschiert

ungebunden

geheftet

フランスでは

broché などが普通一般用語である。

インドの書店

山下高明

インド共和国の首都ニューデリーは英領時代無人の広野を縦横に地割りし、大英帝国の威容を誇示するために必要以上に巨大な道路や堂々たる建物を作った観さえある。それは官庁と役人の官舎と緑地だけの人工都市であり、そこには生活の息吹きや人間活動の生々しさはほとんど感じられない。鏡の様に舗装された広い直線道路に自動車が行きかい、手入れの届いた芝生や生垣に囲まれた白壁の高級住宅に暮す人々は全インド国民五億五千万人中のほんの一握りの上流階級に属する人々である。彼らは出身地によってヒンディ語、パンジャービー語、ベンガリー語などの母語を持っているのに英語を話す方が楽だし、手紙などは絶対に英語でなければ書けないという。ともかくまるでインドらしからぬ町でもあり、住民も一般庶民とは縁のないいわば雲の上の暮らしをしているといえよう。

もちろんニューデリーにもその住民の需要に答えるためのショッピング・センターはいくつかある。その最も代表的なものはコンノート・サーカスである。日比谷公園ほどの広さの敷地に緑の広場を中心にして広い環状通りがとりまき、通りには高い柱廊をもったビルが並んでいる。高級品を扱う商店や一流レストラン、映画館や銀行など欧米都市にくらべてもひけをとらない堂々たる町並みである。

このマンノート・サーカスには何軒かの書店があるが、いかにもニューデリーらしく、扱っているのは全部英語の新本ばかり。英米で出版されたばかりのベストセラー小説も忽ちショーウィンドーに並べられるし、顧客は皆プレス

の利いたシャツにズボンの紳士や華やかなサリーを纏った淑女である。日本から来たヒンディ文学専攻の留学生がこうした書店の一軒に入ってヒンディ語の本を求めたところ、「手前どもではそうしたものは扱っておりません。」と軽蔑した様な口調で断われたそうである。かつての宗主国イギリスのしきたりを今だに守ってこうした書店ではどこも昼食のあとは午後三時まで店を閉じるという悠然とした営業ぶりだが、高い天井から何台となく吊下った扇風機がゆっくりと廻っている薄暗い店内に入ると、忽ちいかめしい鬚のヘッド・クラークが近寄ってうやうやしく「何かおさがしの本は？」と尋ねる。こっちは日本の書店のつもりで漫然と飛込んだので少々ドギマギしながら、「いや特別これと言ってさがしている訳ではないんだが、何かインドの政治関係の本を少し……」と答えると相手は心得顔に引込んだかと思うと新刊旧刊とりまげて山のように持出して来る。そして得々とそれぞれの内容・特色を滔々と述べ立てるので結局幾冊かを買わされてしまうと言うことが多かった。日本ではあれこれと立読みして気に入ったのを求めるというやり方に慣れていたのでこのインド式の押しつけ売りは非常に煩く感じられた。しかしこういう接客態度はインドでは書店に限らずどの商店でも当り前のことであり、クラークと顔なじみになると相手もこっちの主な関心を呑込んで来て荷をほどいたばかりで店頭に出してない新着書を出してくれたり便利なこともあった。インドでは外貨が乏しいせいか特にアメリカ書の輸入数量が少いよう

で店頭に出る前に大学図書館や予約注文者の手にだけ渡るといふ本があるように見受けられた。そうした本のうち私の関心を持っている方面の何冊かを顔見知りのクラークが取のけておいてくれた例もある。洋書の輸入量も販売店の数でもインドとは恐らく比較にならない程多い今日の日本では一寸想像できないかも知れないが、輸入書籍の需要と供給のアンバランスはインドに限らず私が訪れたインド周辺の諸国、パキスタン、セイロン、ネパールなどではもっと大きいように思われた。

ところでニューデリーは首都としての威容に満ちてはいるがインドの生きた姿は見られない。インド民衆の息吹きと歴史の重みを味わうにはニューデリーの北に連なる庶民の町オールドデリーに足を運ばなければならない。

この町は前世紀の中葉英領下に入るまでインドのごく南端を除いて全域を支配した回教系のムガル帝国の首都が置かれていた古都である。世界的な建築美を讃えられる霊廟タージ・マハルを築いたムガル王朝五代目のシャージャハーン帝によって建設されてから三百年余り、かつては世界で最も富んだ通りといわれた目抜き通りのチャンドニー・チョーク（月光通り）も現在では汚れきった建物、道ばた一杯に店をひろげた露店、何をするでもなくしゃがみこんでいる男達、その間を悠々と徘徊する白い聖牛といったインドではどこでもざらに見られる市場バザールとなってしまう。しかしすべてを美しく見せるたそがれどき、露店のアセチレン燈が輝き出すころ、このチャンドニー・チョークを歩きながら通りの前後に聳立つ回教寺院の尖塔や王城「赤い砦」ラール・キラーを望見すると忽ち三百年の昔に還る心地がして来る。

このチャンドニー・チョークからは幾本かの小路が分れているが、その一つナイー・サラク（新しい路）には書

店や文具店が軒を並べておりいわばオールドデリーの神保町といった趣きがある。これらの店はいずれも古いインド風の高床式の店構えである。道路から一メートル程も高いかまち 櫃の端まで一杯に白木綿を敷き詰め商品をつみ重ねた真中に店のあるじはどっかと大あぐらで座り込んでいる。客の方は道路に立ったままか、櫃に腰かけて買物をするといった按配。馴染客だと履物を脱いで店に上がり込んで同じく白木綿でくるんだ特大クッションにもたれ香料を利かせた紅茶などをすすりながらゆるゆると品物を吟味する。歌舞伎で見る『弁天小僧』の浜松屋の場そっくりで、何とも古風な商店街がこのナイー・サラクである。

インドに勤務していた三年余りの間外国人のほとんど行かないオールドデリーのこうした商店街にしばしば足を運んだのも、ニューデリーでは味えない生のインド、古いインドに触れたかったからであった。ナイー・サラクで一番有名な「ムンシーラーム・マノーハルラール」という長い名前の書店は出版も兼業しているインド学専門のしにせで、他の書店では全く見当らない大学紀要のバック・ナンバーや欧米の古いインド学文献をよく揃えている。

この店は高床式だが白木綿スタイルではなく靴のまま入れるようになっているが、天井までびっしり詰った書棚には乗るとギンギン鳴る古い竹のはしごがたて掛けてある。インドのカースト制度研究の上で画期的な新局面を開いたワイザーの“The Hindu Jajmani System”は四十年近くも前にインドの地方出版社から出たものなので探しあぐねていたのが、去年の暮帰国寸前に訪れたこの店の高い書棚で見附けることができた。厚紙装新書判の見ばえのしない本だが手にとるたびに見附けた時の興奮をはしごのきしむ音と店でよくくゆらせていた白檀の線香の香りと共に思い出すのである。（NHK解説委員）

ニュース

- 米国 Harper & Row, Publishers の Vice President and Publisher, Mr. Tadashi Akaishi 8月中旬来日。
- 米国 Kraus-Thomson Organization Ltd. の Mr. Peter Kraus 8月下旬来日。
- 米国 Oceana Publications, Inc. の Mr. David R. Cohen 8月下旬来日。
- W. E. Saarbach GmbH の Mr. Kurt Häring 8-9月来日。

海外ニュース

英国事籍の出版統計と平均単価

1971年1月から6月までの英国の出版統計が“Book-seller”誌に発表されている。これによると、約600点の政府刊行物を除外して、この6カ月間に1,397の出版社から15,826点の書籍が出版され、定価統計は£59,602.05であった。従って書籍1点当りの平均単価は£3.76½である。(1970年7月から12月までの6カ月においては、同じく、1,476社、15,798点、平均単価£2-16-7であった。)

その内訳は、新刊が11,154点で定価合計£32,072.70、平均単価£2.87½。(1970年7月から12月までは、11,544点£28,199-18-4、平均単価£2-8-10。)重版が4,672点、定価合計£27,528.35、平均単価£5.89であった。(1970年7月から12月までは、4,254点、£16,522-4-11、平均単価£3-17-8。)

前年同期(1970年1月から6月まで)においては、1,428の出版社より16,766点出版され、平均単価£2-14-5で、その内訳は、新刊が11,211点で平均単価£2-8-6、重版が、5,555点で平均単価£3-6-6であった。これと比較すれば、かなりの値上りが認められる。

(The Bookseller, 8月21日号より)

新しい国際出版社設立

イギリス人、ドイツ人、アメリカ人など各国の人を役員とする国際的な出版社、Laviathan House Ltd. of London と Laviathan House Inc. of New York が設立された。

同社は今秋より出版を開始するが、主として経営学の分

野のものを出して行く模様。

新会社の役員会の会長は C. Northcote Parkinson, マネージング・ディレクターは C. H. Copeman. 他の役員は、アメリカの J. S. Schiff, ドイツの W. Drummer, それに J. R. Perrin, D. A. Tate の各氏が就任した。

住所は、Laviathan House Ltd. が P. O. Box No. 4, Kingswood, Tadworth, Surrey, England. で、Laviathan House Inc. は、222 East 71st Street, New Yorkである。なお、販売と配給は、Pace and Pace Ltd., 150 Nassau Street, New York が行うことになっている。

(Publishers' Weekly 7月12日号より)

ユネスコの著作権情報センター発足

International Copyright Joint Study Group の勧告に従って UNESCO の総会が設立を可決した International Copyright Center が、いよいよ活動を開始した。

このセンターは、主として低開発諸国の出版社を対象に、出版、翻訳、リブリントなどの著作権に関する情報を集めて提供し、できるだけ有利な条件をあっせんすることを目的としている。特にそれらの諸国の経済的発展に不可欠な、科学技術書や、教育図書に、当初は主眼を置く模様である。

同センターは、著作権の授受の際の簡単なモデル・フォームの作成や、外貨不足の際の解決策なども示して、低開発国の出版を援助して行くことになっている。

(Publishers' Weekly, 7月5日号より)

Routledge の売上げ著増

イギリスのRoutledge & Kegan Paul Ltd. の株主総会は9月29日に開かれる。会長のNorman Franklin氏の言によれば、同社の、1971年3月末で終る会計年度においては、課税前の利益は£119,798であった。1970年は£83,424、1969年は£18,491であったから、著しい伸びである。なお、会長によれば、出版部門の利益は£150,000に達したが、店売部門が£25,000の損失(1970年は£13,000の利益)をもたらしたので、このような結果となった。

また、同社は3月に、ユダヤ系の出版社Shapiro, Vallentine & Co. の株と著作権を取得した。この会社の売上げは、1970年の£1,244,672に対し、£1,258,394を示した。(The Bookseller, 8月21日号より)

—— 紀伊國屋書店提供 ——

通貨問題記録

- 8月16日午前10時（米国時間15日午後9時）、ニクソン米大統領は、金・ドル交換一時停止などのドル防衛策を発表。主な内容下記の通り。

国際

1. ドルと金の一時的な交換停止。
2. ドルと他の通貨との為替レート変更で各国と協議。
3. 10%の輸入課徴金。
4. 対外援助の10%削減。

国内

1. 賃金・物価を90日間凍結。
2. 連邦支出の47億ドル削減。
3. 73年度実施予定の個人所得税減税を一年繰上実施。
4. 自動車消費税の廃止。

5. 投資税の控除。
 6. 生計費関係委員会を設置し、長期的な賃金、物価安定策を作る。
- 8月17日、外為市場でドル売り7億ドルに達し、外貨準備100億ドル突破。

欧州為替市場閉鎖

- 8月18日 EC通貨一斉に変動制へ。
- 8月20日 EC蔵相会議の調整失敗に終る。
- 8月23日 欧州為替市場一斉に再開。
円緊迫続く。
- 8月27日 午後8時大蔵省発表。「最近の国際情勢にかんがみ、従来の外国為替相場の変動幅の制限を8月28日から暫定的に停止する。」
- 8月28日 円5%高で日銀介入。
- 9月3日 10カ国蔵相代理会議開く。

外国出版社の紹介 No. 3

PENGUIN BOOKS LTD.

Harmondsworth, Middlesex, England.

ペンギンのマークで全世界に親しまれているペンギン・ブックス社は1935年に Sir Allen Lane により創立された。最初に出版された10点はアンドレ・モロアの「ARIEL」、ヘミングウェイの「FAREWELL TO ARMS」、アガサ・クリスティ、ドロシー・セイヤーズの探偵小説等であったが「人間がかって研究し、愛し、創造したものゝすべてを費用のかゝらぬ、きれいな、権威のあるペーパー・バック」を目標に世界最大の紙表紙本の文庫を創り上げた。この35年間にペンギン文庫が刊行したタイトル数は8,000点に及び、そのうち4,000点以上が現在も売られている。ペンギン文庫は Penguin, Pelican, Peregrine, Puffin, Peacock 等「P」ではじまる鳥の名前を冠した双書シリーズの総称で「若し誰かゝ何かに興味をもったらそれに関する本はペンギン文庫で得られる」と云はれる程内容は豊富で多岐に亘っている。ペンギンは世界の有名な文学的財産、主として小説の重版を収めた文庫として創刊され、1937年に近代的知識の文庫としてペリカンが刊行された。ペリカンにはこの文庫の為に新しく執筆されたノン・フィクションが多く「古代文明から月旅行まで、魔女の妖術からコンピューターまで、死海の巻物の発見からセックスの心理学」にまで及ぶ。1937年にはペリカンと共に Penguin Shakespeare, Penguin Special の新シリーズが、1941年には子供達の為の Puffin シリーズが Penguin Poets と共に誕生し1942年には Penguin Handbook, 1943年に Penguin Reference シリーズ、1946年には外国の秀れた古典を英訳した Penguin Classics と Penguin Plays が、其の後は Pelican History of Art, Peacock, Peregrine, Penguin English Library, Pelican Classics と続々新しいシリーズが生れ権威のある、求めやすいペーパーバックとして一般読者のみならず大学等の教科書としても広く利用されている。又近年は Penguin Education, ナフルド・サイエンス・シリーズ等大学・高校教育向の教科書出版に力を入れている。昨年創立者の Sir Allen Lane が死去し、現在は Longman-Penguin グループとして活躍している。なお、ペンギン社はロンドンのヒースロー空港の真前ですので従来から日本の学者・出版・洋書関係者の来訪が絶えない。

東京税関、東京外郵便出張所における本年4～6月の通関統計が発表されましたのでお知らせ致します。

通 関 統 計

	4～6月 1971		1月以降累計	
	件 数	金 額 単位千円	件 数	金 額 単位千円
総 数	3,803	3,333,637	7,214	5,433,790
ア メ リ カ	1,286	1,977,544	2,388	3,018,241
イ ギ リ ス	573	517,674	1,164	879,821
ド イ ツ 西	476	360,175	890	678,310
〃 東	87	21,900	158	37,590
フ ラ ン ス	298	141,950	535	213,716
イ タ リ ー	103	21,449	204	54,380
ス イ ス	196	67,385	347	134,335
オ ラ ン ダ	211	68,051	407	171,848
ソ 連	22	62,675	32	97,845
そ の 他	556	94,829	1,089	156,693

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

丸 善 株 式 会 社 ☎ 272-7211
 Mullins, W. and P. Allen. — Student Housing:
 Architectural and Social aspects.
 (Crosby Lockwood) ca ¥6,480
 Making, Shaping and Treating of Steel. 9th Ed.
 (U. S. Steel Corp.) ¥16,000
 Crowell's Handbook of Contemporary Drama.
 Ed. by Michael Anderson, Jacques Guicharnaud
 & others. (T. Y. Crowell) ca ¥4,000
 Kant, I. — Werke. 11 Bde.
 In Gemeinschaft mit H. Cohen, A. Buchenau,
 O. Buek, A. Gorland, B. Kellermann, heraus-
 gegeben von E. Cassirer. Neudruck der Ausgabe
 Berlin 1912-23
 (Verl. Dr. H. A. Gerstenberg)
 Pre-pub. ca ¥103,500
 Regular ¥110,000

㈱ 臨 川 書 店

☎ (075) 781-6166~9
 ☎ (03) 263-4329

Oriental Press Publishers N. V.

(Netherlands)

All Publications.

㈱ 東 光 堂 書 店

☎ 272-1966

Alvar Aalto Vol. II

—The Complete Works 1962-1970—

¥8,500

(Artemis Verlag/Verlag Für Architektur,
 Switzerland)

会 員 の 横 顔

ゲーテ書房

村山新吾

新聞に、この夏日本
 中で飲まれたビールが
 何百万リットルで、そ
 れを霞ヶ関ビルで計る
 と何杯、という記事が
 出ていたが、一昔前ま
 では此の種の尺度に常
 に丸ビルが使われたも
 のである。その丸ビル



の五階の一室、ドアを押して入ると本に囲まれた机の
 前から「ヤァ」と村山さんが立上られた。

大正14年生れ。現役で北支に於て終戦にあう。折し
 も中共・国府軍の抗争中とて武装解除もされず、時々
 助っ人^{すけと}に行っては迫撃砲をドカンとやって後はブラブ
 ラしている間に内地に帰還。清住産業に入社して貿易
 マンとして当初の数年に扱った品目は機械からバナ
 ナまで十指に余るという。同社社長上村氏が本好きで
 当時GHQ関係者からのすすめもありドイツ書の輸入
 を始め、村山さんはあまり本が好きではなかったのだ
 がゲーテ書房に出向ということになる。そしてそれか
 ら20年……。 「結局あまり好きでなかった本と一番長
 くつき合うことになってしまっ——。」と云われるが
 ベテラン必ずしも「本の虫」である必要がないことを
 証明されたことになる。

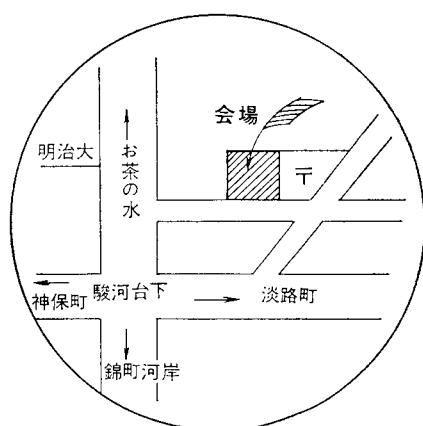
趣味の筆頭はゴルフで、以前は自宅近くのゴルフ場
 に寄ってから出社したというのだからソートーなも
 のである。その他、将・麻雀・ボウリング何でもござれ
 の多趣味多才。昔は仲々の力耕で、協会の同好会の中
 で「殺し屋」の異名をとる何人かのうちの一人である。

文化厚生スタッフとして、協会のヨーロッパ視察
 旅行団のオ一回には幹事を勤め、又東西懇親の旅行の
 際など我々もお世話になっている。御家族は奥様と一
 男一女の標準家庭。(自宅：世田谷区砦1-33-6)

第 4 回

洋書まつり '71

洋書輸入協会主催合同セール



と き 昭和46年10月15日(金) 16日(土) 17日(日)

9.30~7.00 但 17日は6時まで

ところ 東京古書会館 千代田区神田小川町3-22
T L L. (693) 0 1 6 1

ひろく一般からの投書を募ります！

テーマ：洋書輸入協会にのぞむ

- 字 数：400 字内外
- 投稿メ切：毎月末
- 誌上とく名を認めます
- 取捨及び多少の加筆訂正については会報委にお委せ下さい
- 掲載分には薄謝を進呈
- 送 附 先：協会事務局宛

Enfin paru:

フランス書出版総目録

CEF

入荷しました !!

Le Catalogue de l'Édition Française 1970

(French Books in Print)

Le seul répertoire complet de tous les livres disponibles, de langue française, dans le monde.

4 volumes (vol.1: AUTEUR vol.2: TITRES vols. 3 & 4 : SUJETS)

Set ¥58,000 (在庫)



Paris Publications
14 Maple Street
Port Washington, N.Y. 11050 U.S.A.

10月初旬に入荷します

ドイツ書出版総目録

Verzeichnis lieferbarer Bücher

german
books
in print

I. Ausg. 2 Bde.

¥13,000

Verlag der Buchhändler-Vereinigung GmbH Frankfurt

Sales and Distribution:

Verlag Dokumentation München

K.K. 国際書房・東京都千代田区神田小川町3の5・TEL(292)4951代・取引銀行第一勧業銀行神保町支店
振替東京52024・札幌事務所: 札幌市新川2条3丁目272・TEL011(731)2356・売店: 日本洋書センター内
(神田神保町角)

日本総代理店

株式会社
国際書房

昭和46年9月 通巻第53号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

〒103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901

〒530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329